

## 白山手取川ジオパークにおける活動 Activity in the Hakusan Tedorigawa Geopark.

日比野 剛<sup>1\*</sup>, 長谷川 卓<sup>2</sup>

HIBINO, Tsuyoshi<sup>1\*</sup>, HASEGAWA, Takashi<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 白山市教育委員会, <sup>2</sup> 金沢大学

<sup>1</sup>Hakusan City Board of Education, <sup>2</sup>Kanazawa University

石川県白山市では、2010年に白山手取川ジオパーク推進協議会を立ち上げて以来、様々な活動を行ってジオパークの普及啓発にも努めている。2011年9月には日本ジオパークに認定され、地域の意識も少しずつ高まっている。

白山手取川ジオパークは“水の旅”(水循環)をメインテーマとし、地域の豊富な水資源とそれにより作られ続ける様々な大地、そしてその上に成り立つ自然と人の暮らしを見どころとしている。豊富な水資源のもととなるのは、冬に積る大量の雪で、“白山”という山のイメージとあわせて、水とともに雪をPRしている。

これまでに白山手取川ジオパークで行ってきた活動としては、ジオガイド養成講座、モニタージオツアー、各地域や団体における普及講演、ホームページや広報誌による継続的な情報発信、学校におけるジオパーク的な教育活動などがある。ジオツアーにおいても教育活動においても必要となるジオガイドの養成は、力をいれて行う活動の一つであるが、もともと市内には各地域にそれぞれボランティアガイド団体があり、ジオガイドとしての統一が課題となっている。しかしそれぞれの団体は活発な活動をしており、これをうまくジオガイドとして統一した方向性で動き出せば、よいジオパークの案内人となってくれるはずである。

教育面では、学校教育でジオパークを取り入れやすいように教員研修を行ったり、校長会でジオパークについて解説したりするなど、地域内の学校に働きかけている。また子どもたちだけでなく、地域の公民館を利用した生涯学習、地域学習としての活動も積極的に行っている。

そのほか、ジオパークに関するパンフレットや各ジオサイトでの案内看板など、整備がおいっていない面があるが、現在徐々に進められている。既存のジオパークと異なり、わかりやすい一つの大きなジオ的な要素をメインとするジオパークではないため、テーマの見せ方、案内の仕方に工夫が必要になる。そのため、統一された整備がより必要とされている。

しかし、これらの活動を通して普及に努めているとはいえ、ジオパークという言葉そのものがまだまだ一般に浸透しているとは言えず、今後もより活発な活動を行っていく予定である。

キーワード: ジオパーク, 白山, 手取川

Keywords: geopark, Mt. Hakusan, Tedorigawa river